

平成20年度全国学力・学習状況調査結果概要と対策について



平成20年4月に「全国学力・学習状況調査」が実施され、8月末にその結果が文部科学省から公表されました。本年度は問題の難易度が上がったため全国的に昨年度に比べ正答率が8〜16ポイント程度下がり、本市も同様の傾向となりました。

本市児童・生徒の学力は、小学校も中学校も「国語・算数(数学)」とも、国の平均正答率とほぼ同等の結果が出ています。なお、学習状況面については、質問内容が同じなので、昨年度の結果と比較して考察します。

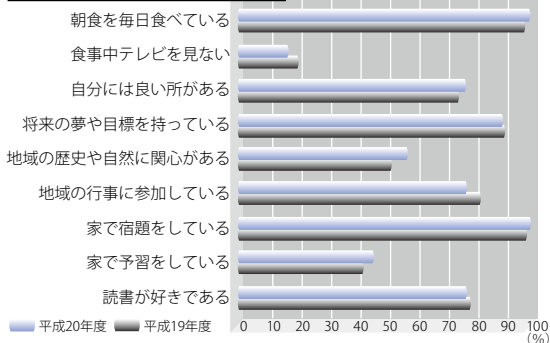
【参加者】
小学6年生(1027人)、中学3年生(959人)

【調査内容】
▼知識に関する問題Aおよび「活用」に関する問題B
▼生活習慣・学習環境に関する質問(75問)

②学習状況調査結果の概要と対策について

本市の児童生徒の生活習慣・学習環境に関する質問から特徴的なものを取り上げ、グラフに表しました。また、平成19年度と平成20年度の結果を比較して、改善の状況を見てみました。

学習状況の特徴：小学6年生

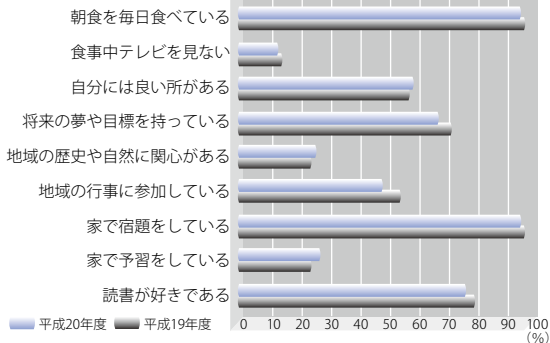


朝食を毎日食べている家庭が昨年度よりも増えてきていることは、学力向上への良い傾向です。また、周りの称賛や指導により自分自身を見つめ自分には良い所があると思う児童が増えてきています。自分に自信を持つことで学力向上が望めます。

ただ、地域の歴史や自然に関心が高くなってきている割には、地域行事に参加している児童が少なくなってきています。家族みんなで地域行事に参加するなどの体験を通して郷土の良さを感じさせることが大切です。

また、読書好きは学力が高いという結果が出ています。家族で読書の時間を設定し、読書好きな子どもを育ててください。

学習状況の特徴：中学3年生



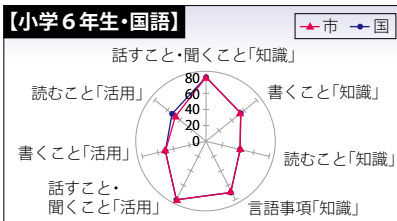
与えられた宿題にはまじめに取り組んでいますが予習などに取り組む生徒が少ないようです。予習や復習の習慣を身に付け、学習の見通しを持ち、学んだことを確実に定着させましょう。

食事中にテレビを見ている家庭が昨年度よりも増えてきています。思春期を迎える中学生には、家族との触れ合いがとても大切です。

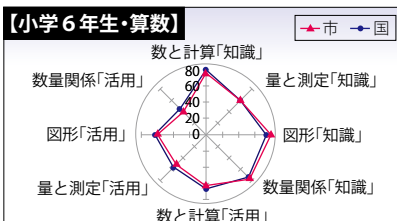
将来の夢や希望を持ち生活している子どもは学力が高い傾向にあると言われます。保護者の称賛や激励が将来の目標を立てる原動力になるので、ぜひ、家族で語り合う時間をつくりましょう。

●問合先＝
本庁学校教育課指導グループ(内線 5322)

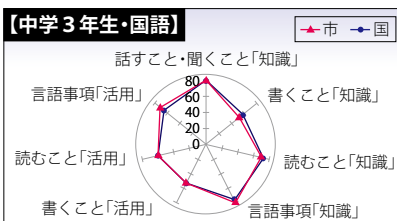
①「知識」・「活用」に関する結果の概要と対策について



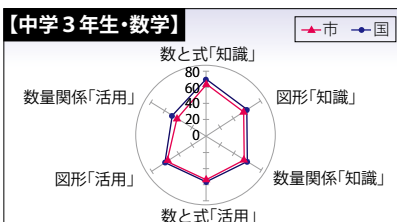
学力を高めるためには、漢字練習や音読などの毎日の家庭学習が欠かせません。また、幅広い読書に心掛け、新聞や身の回りのさまざまなチラシやポスターなどをじっくり読むこともこれからの国語力を身に付ける上でも大切です。



面積や長さの量感覚や割合の考え方を育てる必要があります。身の回りにあるものの長さや広さを予想し、実測して確かめたり、買い物で、2割引や30%引などの商品の値段を実際に計算したりすることが大切です。



漢字や文法の練習、古文の音読など、授業の復習を中心とした家庭学習を計画的に進める必要があります。また、ブックリスト(各種の推薦図書)を利用して読書の種類を広げたり、新聞や広報紙、各種リーフレットなどにも関心を持って読んだりすることが大切です。



数量の関係をとらえ、生活に生かすことが必要です。身の回りにあるものの個数と重さの関係を表やグラフに表し、それを基に測定されていない数値を推測するなど得られた情報から解答を導くことが大切です。